

慢性閉塞性肺疾患患者の増悪予防のためのセルフマネジメント支援

看護学部 森 菊子



キーワード

セルフモニタリング、呼吸器感染、高二酸化炭素血症、増悪、訪問看護

研究概要

本テーマでは、慢性閉塞性肺疾患患者に対する訪問看護を中心とした増悪予防のためのセルフマネジメント促進プログラムの開発に取り組んでいます。呼吸器感染と高二酸化炭素血症による増悪予防に関するプログラムで、自分の身体を理解を促すためのセルフモニタリングの促進と環境調整で構成しています。体温や症状を測定・観察し、変化の見える折れ線グラフで記載していくことにより、自分の体調の変化に気づきやすくなります。また、看護師が記載した内容を一緒に解釈していくことで、自分の身体に起きていることの理解が深まります。また、少数の評価しかできていませんが、「健康のために気をつけていること」「健康のために選んでいること」「(健康管理のために)生活の中で続けること」に変化がみられてきています。

アピールポイント

本プログラムのポイントは、セルフモニタリングを促進することです。体温は数値で明確に変化がわかりますが、咳、痰のような症状においても患者は6段階評価の1段階の違いを明確に感じとり評価しています。この患者の評価する能力を生かし、外来の場、訪問看護の場で、患者の身体の微妙な変化を共有することで、早期に適切な対応ができ、生命に危険を及ぼすことなく、回復につなげることができると思っています。

応用分野

今後は、心不全、慢性腎臓病などの疾患におけるセルフモニタリング支援も検討していきたいと思っています。

